

官報報告

宗

丙  
大正七年十一月十五日

立憲大正七年十一月十五日  
決裁大正七年十一月十五日

宗秩寮總裁

宮内事務官

仙

記

大臣

次官

西五位勲四等湯本義憲特旨  
叙任ノ件

土  
三

九  
五

二

大正七年十一月十五日  
臺帳記入十一月十五日  
官報

宮内省

(六六)

14

大正七年十一月十四日  
湯本義憲特旨

大正七年十一月十四日



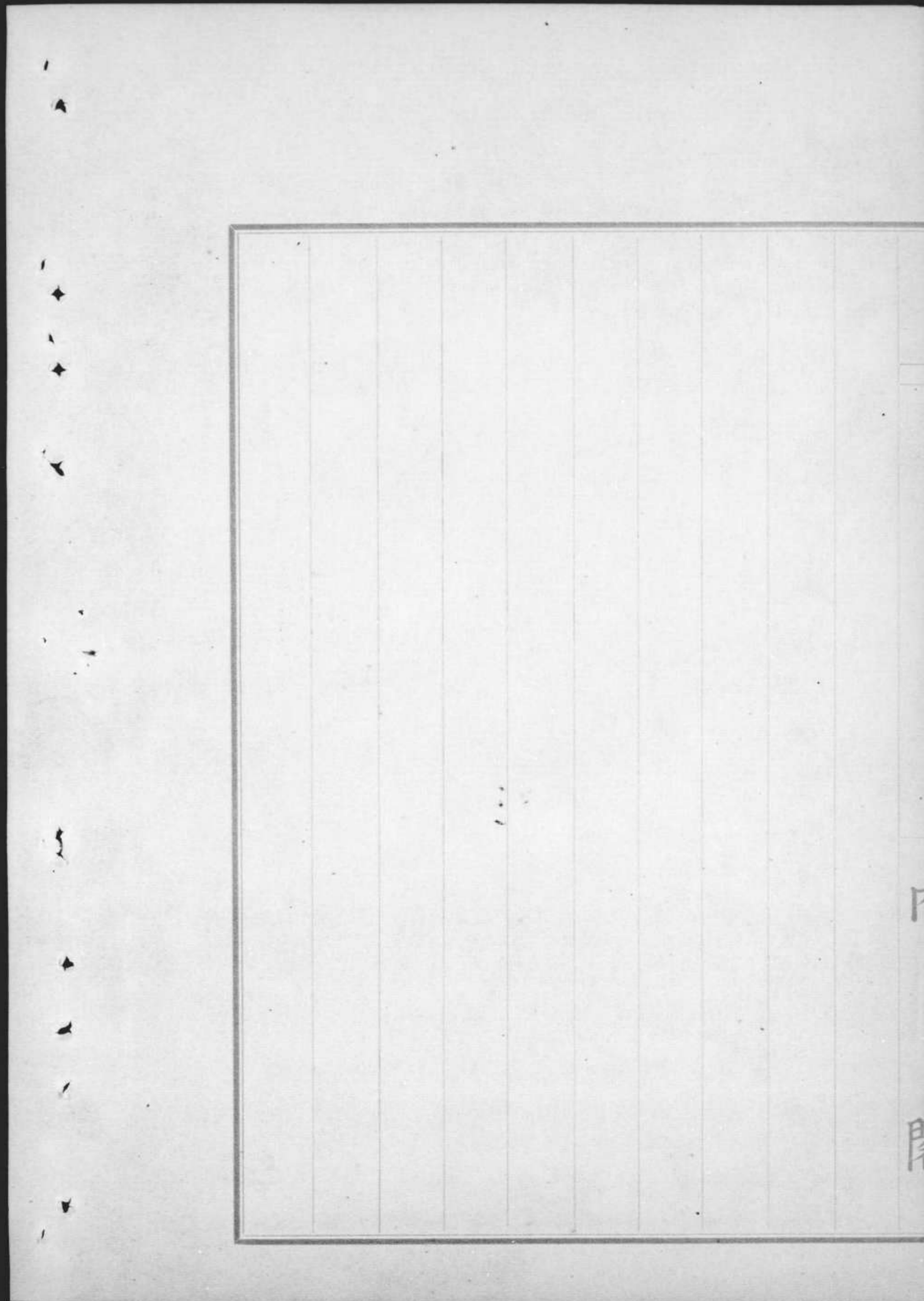
正五位勲四等湯本義憲 特旨

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正七年十一月十四日

内閣總理大臣原 敬





内閣書記官  
准 二五

大正七年十月十四日

内閣書記官



内閣總理大臣



内閣書記官長



十月拾五日 裁可

正五位勲四等湯本義憲ハ明治維新ノ際  
克ク國事ニ務メ爾來常ニ力ヲ教育  
衛生産業ニ致シ殊ニ治水ニ至リテハ  
其ノ功績顯著ナリ然ルニ本人ハ目下  
病氣危篤ニ付此ノ際特旨ヲ以テ位  
一級進メラルヘク上奏相成然ルヘシ

特旨ヲ以テ位一級被進

正五位勲四等湯本義憲

叙從四位

内閣内任三二五

大正七年十一月十五日

内閣書記官



宮内事務官

印

通牒

正五位勲四等湯本義憲特旨  
敍位ノ件別紙ノ通御裁可相成  
候旨出張書記官ヨリ通知有之  
候ニ付并令方至急所計相成度

内

閣

内位 二一五

大正七年十一月十四日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

十月拾五日 裁可

正五位勲四等湯本義憲ハ明治維新ノ際能ク王事ニ勤メ尔来常ニ力ヲ教育衛生産業ニ致シ殊ニ治水ニ至リテハ其功勞頗ル顯著ナリ然ルニ本人ハ目下病氣危篤ニ趣ニ付此際特旨ヲ以テ位一級進メラルヘキ旨上奏相成然ルヘシ

正五位勲四等湯本義憲  
特旨ヲ以テ位一級被進

正五位勲四等湯本義憲  
敍徒四位

叙従四位

正五位勲四等湯本義憲

右ハ資性英敏王政維新ノ際大總督府  
宮附属被仰付輜重運搬ノ事ヲ掌リ  
能ク王事ニ勤ム夙ニ意ヲ子弟ノ教養  
ニ注キ或ハ當路ニ建言シ或ハ學區取締  
學事會幹事トナリテ學政ニ参画シ私  
塾ヲ設立シ良師ヲ招聘シテ人材ノ陶冶ニ  
盡カシタル等教育ノ進歩改良ニ努力スル  
所アリ其他醫術ノ開進ニ惡疫ノ豫防ニ産

内務省

業ノ開發ニ皆克ク其力ヲ盡シ殊ニ幕府ノ  
末造以來河川ノ情况漸次壊破シ年毎  
ニ漲溢汎濫ノ害増加スルヲ憂ヘ水害ヲ  
除キ舟楫灌溉ノ利ヲ興サント欲シ明治十  
八年以來多額ノ私費ヲ投シ技師ヲ招聘  
シテ河川ノ調査治水ノ研究ニ著手シ  
自ラ山谷ヲ跋渉シテ踏査シタル所ノ河  
川大川十四小川數フヘカラサルノ多キニ及  
ヒリ調査漸ク結了シ告クムニ及ビ偶々舉  
ケラレテ衆議院議負トナルヤ治水建議

案ヲ提出シ同廿四年更ニ東北東海北陸ノ諸道及京阪地方ヲ巡回シ到ル所河川ノ實況ト地方財力ノ如何ヲ視察シ曩ニ提出ノ建議案ニ修正ヲ加ヘテ第四期帝國議會ニ提出シ同廿六年二月滿場一致シ以テ可決セラレニ至レリ爾來衆議院議負土木會委員臨時治水調査會委員其他治水ニ關スル各種ノ議長議負又ハ委員等トナリテ木曾、澱、筑後三大川ノ改修ヲ始メ諸大河川ノ改修ヲ見ル

内務省

ニ至ラレメタル等多年河川ノ改修ニ盡瘁シ又曾テ岐阜縣知事ニ任セラレルヤ同縣治水ノ策ヲ確立シタル等我邦治水上ニ貢獻シタルノ功績洵ニ顯著ナルモノト認メラレ候然ル處本人儀病氣ニ罹リ目下危篤ノ状態ニ陥リ候ニ付此際特ニ頭書ノ位ニ叙セラレ候様致度及申牒候也

大正七年十一月十四日



内務大臣床次竹二郎



内閣總理大臣原敬殿

内務省

内務省  
秘第2767號  
7.11.18

秘第第ハ二。號

位階進叙之儀内申

元岐阜縣知事

正五位勲四等湯本義憲

右者今般病氣危篤、趣相聞、候処同人、明治維新、際能、王事ニ勤メテ未常、カラ教有衛生產業、致シ殊、治水ニ至リテ、其功勞頗ル顯著ナリト認メラレ候、付此際特、位階進叙、御註儀、相仰キ度別紙、御書相添、此段及内申候也

大正七年十一月三日

埼玉縣知事 岡田忠為



埼玉縣

内務大臣床次竹二郎殿

七十一

功績調書

正五位敷四等湯本義憲

北埼玉郡太田村大字小針、豪族田島新六、第十一子ナリ資性英敏常ニ信義ヲ重シシ友情ニ厚シ是ヲ以テ夙ニ青年社會ノ敬愛スル所トナレリ又久二年幕府道中傳馬役馬込勘解由ノ養子トナリ江戸ニ移住ス三年道中傳馬役ニ補セラル時ニ幕府ノ末造ニ方リ兵馬控總馭傳ノ事務極メテ頻繁ナリト虽モ能ク斡旋シテ措辦流ルカ如シ大政維新ニ及ヒ又能ク王事ニ勤メ輜重運搬ノ事ヲ掌ル乱平クルニ及ヒ照幡烈ニ助大野誠、岡松甕谷等ニ後ヒ益文武ノ學ヲ修メ汎ク天下ノ名士ト交リ大ニ為ス所アラントス明治三年故アリテ田島家ニ復歸シ

埼玉縣

明治九年湯本家ヲ繼承ス同家ハ近郷ヨリ原ノ大盡ト稱セラレタル三百年來ノ名族ニシテ世々農桑ヲ務メ兼テ商業ニ従事セリ家ヲ治ルルヤ約ニシテ儉是ヲ以テ家運益隆ナリ然レトモ他ノ危急ニ臨ンテハ財ヲ散シテ各マカルコト土芥ノ如シ而シテ教育ニ衛生ニ産業ニ治水ニ関シ貢獻スル所尠カラズ其事績ヲ擧ケレハ

第一教育ニ関スル事項

郡縣制度ノ初メテ行ハレ地方官ノ務メテ教育ヲ獎勵セラル、ヤ當時ノ野村縣令ニ建言シテ凡ソ國家ヲ富強ニシ獨立ヲ維持セント欲セハ完全ナル教育ヲ施サルハカラス本邦ノ教育ハ道徳ノ一方ニ偏シテ智徳兼備ノ實アルヲ見ス故ニ先ツ歐米ノ法ニ倣ヒ教育ノ改良ヲ圖リ以テ之ヲ振起セサルハカラスト議論極メテ剴切ナリ遂ニ縣下ノ

學政ヲシテ一變セシムルモノハ蓋シ之ニ基クトモツ明治  
六年第十四學區取締ヲ命セラル同八年ニ至リ白根  
縣令ニ建言シテ又其採ル所トナリ遂ニ第十三番中  
學區學事會ヲ埒玉縣羽生町ニ開キ以テ教育奨  
勵ノ方法及諸般ノ學政ヲ討議審論セシメ其幹事  
ニ舉ケラルヤ賛画スル所甚タ多シ之ヲ本縣學事會  
ノ嚆矢トス同十三年本縣師範學校ノ建築ニ際シテハ  
率先シテ資金ヲ醵集シ以テ其舉ヲ贊助ス又近傍  
十有餘ノ小學校ニ對シ屢々書籍器械ヲ送リ以テ其用  
充ツ翌十四年小針村ニ益進義塾ヲ設立シ良師ヲ招  
聘シ近郷ノ子弟ニ高等教育ヲ授ケ以テ人材陶冶ニ  
盡カシ壽年有為ノ士ヲ出セリ

第二衛生ニ関スル事項

埒玉縣

明治八年學事會幹事ト醫務取締ヲ兼任セルヲ以テ  
醫學講習會ヲ開キ其會長トナリ以テ衛生上ニ於ケル  
積弊ヲ一洗シ醫術ヲシテ益々開進セシム同十三年ノ頃  
近郷ニ於テ惡疫ノ流行スルヤ自ラ生死ノ間ニ出入シ撲  
滅ノ功與テ力アリシノミナラス豫防費ノ如キハ自ラ之ヲ負  
擔セリトモツ

第三産業ニ関スル事項

明治十五年旧忍藩士族五百四十有餘名ト謀リ埒玉  
郡行田町ニ忍行社ヲ設ケ其社長トナリ産業教場  
ヲ開キ以テ生徒ヲ養成シ其業ヲ終ヘシ者數百名  
茲ニ於テ獨立ノ業ヲ營ムニ至リタル者又頗ル多シ蓋シ  
此社ヲ創立セシハ恒産ナキ者ヲシテ職ニ就カシメントス  
ル目的ニ出ツルモノニシテ鉅資ヲ投シ以テ其業ヲ贊助

セリ今日行田足袋ノ名聲アルニ至リシモ亦與リテカアル  
モノナリ

#### 第四治水ニ関スル事項

我國幕府ノ末路ヨリ河川ノ情況漸次壊破シ年毎ニ漲溢汎濫ノ増加スルヲ憂ヘ之ヲ挽回シテ以テ人畜田圃ノ水害ヲ除キ舟楫灌溉ノ水利ヲ興サント欲シ明治十八年終ニ意ヲ決シテ河川ノ調査治水ノ研究ニ看手シ以テ未數年間山谷ヲ跋渉シテ踏査スル所大川十四小川數フヘカラサルノ多キニ及ヒ技師ヲ招聘シテ調査研究ニ私資ヲ投スルコト多額ニ達セリ調査漸ク結了ヲ告クルニ及ヒ偶擧テラレテ衆議院議負トナルヤ査定シタル所ノ治水ノ建議案ヲ草シテ第一期帝國議會ニ提出シタルモ時日ノ定ラサル爲メ議決ニ至ラスシテ止ミタ

埼玉縣

リ然レトモ益々努メテ倦マス同二十四年六月ヨリ九月ニ至リ東北東海北陸ノ諸道及京阪地方ヲ巡回シ到ル處河川ノ實況ト地方財力ノ如何ヲ視察シ大ニ材料ヲ蒐集シ初期ノ建議案ニ大修正ヲ加ヘ百五十三名ノ賛成者ト共ニ之ヲ第二期議會ニ提出シ滿場一致ヲ以テ可決トナル茲ニ於テ名聲益噴ミタルニ至ル同三十六年六月土木會委負仰付ケラレ同三十二年八月大里北埼玉兩郡利根川治水同盟會會長ニ推薦セラレ同四十年十月関東一府五縣聯合治水同盟會顧問ヲ託セラレ同四十三年十月臨時治水調査會委負ヲ仰セ付ケラレ、等治水事業ニ全力ヲ注キ其治績最モ顯著ナルモノナリ往年職ヲ岐阜縣知事ニ奉スルヤ同縣ニ在ケル河川汎濫ノ狀況ヲ見、治水ノ根本策ヲ確立スルノ

必要ヲ認メ殖林ヲ奨勵シテ出水ヲ緩和ナラシメントシ  
縣樹苗圃ヲ設置シ苗木無償下付ノ途ヲ開キ大ニ  
奨勵スル所アリ一面河川改修ノ議ヲ唱フル等銳意努  
カシタリ同縣ニ於ケル治水策ノ確立ハ此時ニ成レルモノニ  
シテ縣民ノ大ニ喜フ所ナリトス

今本邦重要ナル河川改修上ニ於ケル業績ヲ擧ケレハ  
尤ノ如シ

一木曾川改修上ニ於ケル業績

岐阜縣ハ全國無比ノ水害地ニシテ古來洪水氾濫ノ  
患害ヲ被ルコト其幾回ナルヲ知ラス而シテ明治維新  
以後最モ甚タレトス之レカ為メ貴重ノ生命ヲ喪失  
シ財産ヲ亡盡シ兄弟妻子離散退轉スル等、慘禍  
ニ罹ルモノ實ニ枚擧ム遑アラサルノ狀況ナリ政府又大ニ

埼玉縣

之ヲ患ヒ本曾、揖斐、長良、三大河ノ大改修ヲ為  
シ其慘害ヲ除カレコトヲ企畫シ明治十一年度ヨリ調  
査測量ニ着手セラレ廿年度ヨリ廿年度迄十一年  
間繼續事業ヲ以テ起工セラル、ニ至レリ然ルニ其豫  
算ハ一般物價最低落セル十八九年ノ頃ニ於ケル時價  
ヲ標準トシテ編成セラレタルモノニシテ爾來物價ノ  
上騰スルニ從ヒ工費非常ニ不逞ヲ告ケ廿五年ニ、遂ニ  
工事半ニシテ中止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ義憲  
大ニ之ヲ憂ヒ再三現場ニ臨ミ本曾川ヲ始メ揖斐、  
長良ノ水源地ヲ踏査シ廿六年二月第四帝國議  
會ニ於テ本曾川工事達成ノ建議案ヲ提出シ  
懇誠其緊急ヲ論シ遂ニ大多數ヲ以テ之ヲ通過セ  
シメ金五拾萬圓ヲ廿六年度工費ニ増額セ

ラル、至リ爲メニ工事ノ進捗ヲ見タリト虽モ本事業タルヤ前達尙遠ニシテ更ニ工費ノ缺乏ヲ告ケ復將ニ工事中止ノ悲運ニ遭遇セントセシカハ東奔西走大、努メ廿八年十一月土木會開會ニ際シ本會、澱、筑後、三大川治水ノ建議案ヲ提出シ満場一致ヲ以テ可決シ大ニ政府ノ意向ヲ促シ更ニ廿九年第九議會開會以來屢治水會ヲ開キ戦後國家内治ノ經營上最モ急務ナルモノハ治水事業ヲ完成セシムルヨリ先ナルハナレトシ本會、澱、筑後、ノ外十數ノ大川ニ関スル建議ヲ提出シ満腔ノ熱心ヲ以テ萬難ヲ排シ終ニ本會川改修補助費無慮貳百九拾八萬七千圓ノ政府案ヲシテ貴衆兩院ノ協賛ヲ得タルカ如キハ義憲ノ多年不撓不屈以テ本邦國

埼玉縣

土保全上治水ノ一日モ忽緒ニスヘカリサルヲ主張シ至誠一貫以テ朝野ヲ感動セシメタルモノ與テカアリ其功績寔ニ大ナリト云フヘシ蓋シ岐阜縣治水ノ今日アル所以ナリトス宜ナル哉同縣治水共同會負ニ連書ヲ以テ同人ニ感謝狀ヲ贈リ且ツ其功績ヲ不朽ニ頌スル爲メ油島千本松ノ地ヲ相シ其由来ヲ刻シ記念碑ヲ建立シ其竣工式ヲ奉クルニ當リ同委員長ヨリ金盃一個ヲ贈レリ

一澱川改修上ニ於ケル事績

澱川ハ近歲ニ於ケル大河ニシテ其流域京都大阪滋賀ノ二府一縣ニ亘レリ古來汎濫シテ沿岸人民ノ危害ヲ被ルト甚シ徒古ハ知ラズト虽モ天災以還澱川ニ密通スル所其洪水ニ遭遇スルト實ニ幾十百回ゾヤ

其難ニ死スル者其財ヲ亡スル者奉テ數フヘカラス  
 為メニ沿岸人民ハ降雨アル毎ニ危惧ノ念ニ堪エサル  
 ノ状況ナリ義憲之ヲ憂ヒ廿三年親シク河川ヲ  
 踏査シ其地勢ヲ審究シ雨未屢、衆議院ニ於テ  
 之ヲ改修ノ緊要ナルヲ叫ビ竟ニ明治廿九年第九議  
 會ニ於テ其施工建議案ヲ可決セシムルニ至リ是レ實  
 地踏査以來七年间殆ント一日、如ク河川改修ノ策ニ  
 専心腐心シタル結果ナリトス是レカ為メ沿岸人民ノ受  
 ケル幸福至大ナルモノアリ依テ二府一縣ノ人民總代ニ連  
 書ヲ以テ感謝狀ニ蔣繪文具二個ヲ添ヘテ同人ニ贈リ  
 大阪市冬事會亦感謝狀ヲ贈リテ其功績ヲ稱セリ

一筑後川改修上ニ於ケル事績

埼玉縣

産ヲ亡失スルコト頗ル頻繁ナリ義憲ハ痛ク之ヲ憂ヒ  
 之カ治水ノ策ヲ講スルコト最モ緊要ノコトナリトシ議  
 會ニ於テ大ニ奔走スル所アリ遂ニ其目的ヲ達シ改修  
 工事ノ遂行ヲ見ルニ及ヒ為メニ同地方昔日、慘禍ヲ免  
 ル、ニ至レリ沿岸庶民大ニ義憲ノ功ヲ徳トシ明治四十年  
 十二月其工ヲ竣ルニ當リ其沿革ヲ石ニ勒シ之ヲ千歳  
 ニ傳フルト同時ニ感謝狀ニ當地ノ産物タル久留米餅ヲ  
 添ヘ同人ニ贈リテ其功績ヲ称揚セリ

一斐伊川改修上ノ事項

明治廿六年島根縣下ニ於ケル斐伊川汎濫シ其禍害  
 實ニ名状スヘカラサルモノアリ義憲ハ其實況調査ノ  
 為メ直サニ同地ニ臨ミ其水源及汎濫ノ状況ヲ踏査  
 シ第六議會ニ於テ該川土功國費支辨ノ請願アルヤ六



大川建議案ノ一ニ入レ其實況ヲ説述シテ大ニ其必  
要ヲ唱ヘ遂ニ其通過ヲ見ルニ至レリ之レ亦同人ノ力俟  
テ大ナリト謂フヘシ為ニ同縣人ニ感謝状ヲ贈リテ其  
徳ヲ稱ヘリ

一治水上ニ於ケル同人ノ功勞ヲ多トシ感謝状ヲ贈リ表  
ルモノ勲ナカウサルヲ以テ左ニ録シテ其事績ヲ窺フノ  
資ニ供ス

明治二十五年八月 京都府水利委員

同 二十六年二月 茨城縣香取郡人民惣代

同 年二月 富山縣民惣代

同 年五月 岐阜縣治水協同會

同 年九月 愛知縣西海郡民惣代

同 年十一月 茨城縣利根治水協同會

埼玉縣

同 二十七年七月 岐阜縣西八郡神戸所惣代

同 年八月 島根縣楢縫郡民惣代

同 二十九年一月 岐阜縣多藝郡堤防委員惣代

同 年三月 新潟縣新潟市奉事會負

同 年五月 福岡縣御井郡民惣代

同 年七月 岐阜縣民惣代

同 年同月 大沼府京都府滋賀縣民惣代

同 四十年十二月 福岡縣筑後川沿岸人民惣代

同 四十三年九月 岐阜縣山林會會長薄定吉

其他治水上ノ件ニ付左ノ府縣民ヨリ感謝状ヲ贈リ表ルモノアルモ  
之ヲ略ス

東京、群馬、長野、新潟、山形、岩手、宮城、福島、山  
梨、静岡、愛知、岐阜、福井、石川、富山、滋賀、

京都、大坂、兵庫、岡山、廣島、島根、鳥取、  
福岡、

埼玉縣

履歴書

埼玉縣北埼玉郡埼玉村大字埼玉首於七番地

平民

正五位勳四等湯本義憲

嘉永二年二月廿五日生

一、文久三年道中傳馬役見習幕府ヨリ被仰付

一、慶應三年道中傳馬役見習ノ資格ヲ以テ大徳督府ヨリ

大徳督有栖川宮殿下附屬被仰付

一、明治六年六月ヨリ同九年ニ至ルマテ埼玉縣十四區學區取

締事務ヲ命セラル

一、明治八年埼玉縣第十三番中學區學事會幹事ニ

奉ケラル

一、明治十年一月埼玉縣第十六區學區取締ト為ル

埼玉縣

一、明治十二年五月埼玉縣會議員ニ當選

一、明治十五年四月埼玉縣會議員ニ當選

一、明治十六年埼玉縣北埼玉、北埼玉、南埼玉、三郡組合元

荒川通縣合會議員ニ奉ケラル同會議長ト為ル

一、明治十七年五月荒川通北縁組合第四部ヨリ土木集

會議員ニ選舉奉セラル該會議長トナル

一、明治二十一年道路改修費寄附ノ為埼玉縣知事ヨリ

賞与セラル

一、明治二十二年十一月北埼玉郡所得稅調査委員ニ

奉ケラル

一、明治二十三年七月埼玉縣第四選舉區ヨリ衆議院

議員ニ奉ケラル

一、明治二十五年二月埼玉縣第四選舉區ヨリ衆議院

議負ニ奉ケラル

一、明治二十五年三月行田電信局設置費寄附、為埼玉縣知事ヨリ賞セラル

一、明治二十五年三月明治廿三年水害、際罹災者救恤、廉ヲ以テ彰事ヨリ賞セラル

一、明治二十五年ヨリ同三十年迄貴衆兩院議員組織ニ係ル治水會常任幹事ト為ル

一、明治二十六年内閣ヨリ土木會委員ヲ命セラル

一、明治二十七年三月埼玉縣第四區選舉區ヨリ衆議院議員ニ奉ケラル

一、明治二十七年九月同選舉區ヨリ衆議院議員ニ奉ケラル

一、明治二十八年土木會委員ヲ内閣ヨリ被仰付

一、明治二十八年五月教育費寄附、廉ヲ以テ縣知事ヨリ賞與セラル

一、明治二十九年三月第七回帝國議會召集、際勵精ノ廉ヲ以テ賞勳局ヨリ銀杯壹組下賜セラル

一、明治三十年四月埼玉縣知事ニ任セラル、高等官ニ等ニ叙セラル

一、明治三十年四月大日本武徳會地方委員長囑託セラル

一、明治三十年四月日本赤十字社以阜支部長囑託セラル

一、同年六月水難救濟會以阜縣委員長囑託セラル

一、同年五月正五位ニ叙セラル

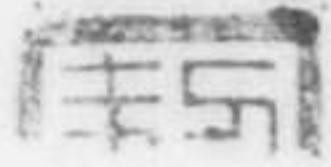
一、同年五月土木會委員被免

一、同三十一年二月神苑會以阜縣委員總長囑託

一、同三十一年四月日本赤十字社ヨリ功勞ニ依リ特別社員ニ列セラル

一、同三十一年四月十日、曾依願以阜縣知事ヲ免セラル  
 一、同三十二年八月大黒、坊崎、玉面、郡利根川治水同盟會會  
 長ニ推選セラル  
 一、同四十年十月、関東一府五縣聯合治水同盟會顧問ヲ託  
 セラル  
 一、同四十二年十月、内閣ヨリ臨時治水調査會委員ニ任命  
 一、大正四年十月十日、敍勲四等授瑞寶章

坊 崎 玉 縣



五七八二五

正五位勳四等湯本義憲

特旨ヲ以テ位一級被進

正五位勳四等湯本義憲

敘從四位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記並

辭令ハ迄テ可及回送候也

大正七年十一月十九日

宗秩寮總裁侯爵井上勝之助

内務大臣

宮内省

裏面白紙

34

五

五七  
五八  
五九

一 後田位勲曰等湯中義憲

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正七年一月十九日

宗秩寮總裁侯爵井上勝之助

内物也

宮内省

裏面白紙

35